

北薩の輝き

良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育

「見届け」と「つなぎ」

北薩教育事務所 所長 末満 一二三

平成31年度の北薩地区は、児童生徒数16,147人、教職員数1,576人でスタートを切った。そのうち、468人の先生方が赴任され、各学校に新たな風を吹き込んでくださっている。

さて、本地区の教育のスローガンを「良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育」、業務推進上のキーワードを「見届け」と「つなぎ」と設定した。本地区の子供たちのため、一緒に力を合わせて取り組んでいきたい。

ところで、数十年前、教師一年目の私は、ある先輩教師から「子供を正しく理解し、教え導くためには、登校時の様子を見届けることが大切です。」というアドバイスを受けた。それから、私の教師としての一日のスタートは、校門付近で子供を出迎えることになった。こちらがすがすがしくなるような「おはようございます。」と元気よく挨拶する子、逆に聞き取れないぐらいの小さな声で挨拶する子、遅刻ぎりぎりに駆け込みながら挨拶する子など、子供の様子は十人十色であり、やがて、様々な要因（体調、性格等）により子供の挨拶の仕方や登校の様子が異なることに気付いた。この朝の活動をとおして、教師として子供の状況に応じどんな声かけをすればよいのか、人としてどのように成長するのが望ましいのかなど、様々なことを考えながら子供を見届けることの大切さや各家庭とつなぐことの大切さなど、多くのことを学んだ。また、同窓会で、ある教え子から「中学校の頃、先生は細かい所までいつもうるさかった。何かあるたびに話しかけてきて、そのときは面倒だと思っていたけど、今は気にかけてくださっていたことがよく分かるようになりました。」と言う言葉をもらい、涙が出るほど嬉しかったことを思い出す。教師として、褒めながらも厳しく接したり、一歩下がって見守ったりするなど、自立した子供に成長することを願いながら関わることで、私自身も成長していたのだろう。

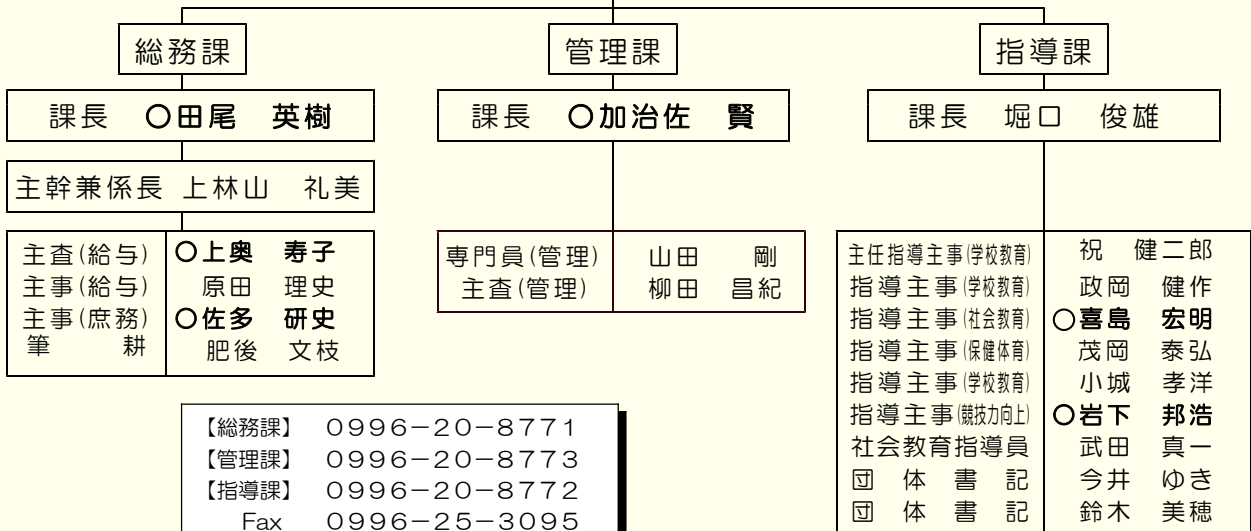
教育の成果が出るには時間を要する。教育とは、遠い将来に期待し、根気強く取り組まなければならない営みである。学校における「良質な教育環境」づくりの第一歩は、教職員が、子供のよさを褒めながら、子供の自己肯定感を高め、子供の居場所づくり、絆づくりを行うことではないだろうか。

北薩地区に勤務し、子供たちの教育を担う教職員が、家庭、地域と連携しながら結束し、より一層良質な教育環境づくりに邁進して下さるようお願いしたい。

事務所機構図

所長 ○末満 一二三

○のついた職員は今年度、異動してきた職員です。



新年度のスタートに当たって

新年度がスタートしました。北薩教育事務所では、「良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育」をキャッチフレーズに、本地区教育の更なる充実を図っていきたく思います。本年度、特に留意してほしいこと等について、まとめてみました。御確認ください。

「北薩の授業づくり3ポイント」

1 目標の明確化

2 子供が主役となる学び

3 ラスト10分の充実

「めあて」と「まとめ」の整合性

今年度は、ラスト10分での【振り返りの充実】を重点とし、「何が分かったのか」「どのように学んだのか」などを明確にしましょう。そして、児童生徒が学習意欲を高め、家庭学習や授業に臨む、主体的な学習者の育成に取り組みましょう。

不登校に関する二つの取り組み方

〈不登校の数を継続数と新規数に分けて把握する考え方〉

■継続数に着目した取組

取組の対象

- ・ 前年度不登校であった児童生徒
- ・ 年度途中で不登校となった児童生徒

取組の方向性

- ・ 児童生徒の社会的自立をめざした多面的な支援
- ◎ 「生徒指導722」（国立教育政策研究所）を学校の取組の充実のために活用していきましょう。

■新規数に着目した取組

取組の対象

- ・ 全ての児童生徒

取組の方向性

- ・ 「居場所づくり」「絆づくり」を通して、全ての児童生徒にとって「不登校にならない魅力ある学校づくり」の推進



全ての保護者に合理的配慮の提供の周知を!

合理的配慮の意味や相談窓口等の周知

学校便り、PTA総会や入学説明会などの機会を活用して広く周知に努めてください。

合理的配慮の内容の視点の例

- ・ 個々のニーズに対応したもの
- ・ 障害のない者と同等に機会を提供するもの
- ・ 建設的対話による相互理解に基づいたもの
- ・ 学校等に過度な負担がない範囲のもの
- ・ 本来の学校業務に付随するもの 等

合理的配慮の提供は、適宜、内容や方法の見直しについて、双方が協同で問題を解決していくことが大切です。

北薩っ子五つの実践と体験活動の奨励を!

「北薩っ子五つの実践」を合言葉に、各学校で積極的に推進してください。

- 1 心を込めて、元気よくあいさつ
- 2 はきもののかかとそろえ
- 3 進んで手伝い
- 4 進んで体力づくり
- 5 早寝早起き朝ごはん



体験活動

ゴールデンウィークがやってきます。子供たちに、多くの体験活動にチャレンジさせましょう。出水市青年の家、薩摩川内市立少年自然の家では、ゴールデンウィーク中に、イベントが計画されています。

「部活動の在り方について」

平成31年3月に「鹿児島県部活動の在り方に関する方針」が策定されました。適切な練習日の設定や日々の練習時間等、方針に則った部活動運営に努めましょう。

なお、各学校において部活動の充実と適正化、併せて学校における教員の働き方改革の推進が図られるようお願いいたします。

子供の心身の健康を守り、安全・安心な学校に!!

以下の項目をチェックしてみましょう。

- 「体に現れる」・「行動や態度に現れる」・「対人関係に現れる」サインの3観点から健康観察を行っている。
- 食物アレルギーのある児童生徒とその対応について共通理解、共通実践している。
- AEDの設置場所と使い方について全職員が把握している。
- 健康診断の結果に基づいた受診勧奨や健康相談の体制が確立している。

事故・違反「0」に向けて

新年度になり1か月が経過し、各学校では、「信頼される学校づくりのための委員会」等（名称は各学校それぞれ）において、サービスファイルの活用や交通事故・違反についての意見交換、デスクマットや車内などに家族や児童・生徒の写真を貼付するなど教職員一人一人の自覚を促す具体的な取組が行われていることと思います。今後も交通違反・交通事故のみならず、教職員としてあってはならない非違行為や負傷事故を未然に防ぐ手立てをとりましょう。

業務が錯綜する中ですが、「チーム学校」の視点で教職員みんなで智恵を出し合い、委員会や研修が形骸化することなく「やってよかった」「今日から気を付けよう」という思いや実践を共有化していきましょう。

子供の教育を担い、地域・保護者の期待と信頼に応えるべく、日々頑張られている先生方全員で、「チーム北薩」として事故・違反「0」を目指しましょう。

編集後記

いよいよ元号が変わり、新しい時代がスタートします。「不易と流行」を意識しながら、よい時代を創っていきましょう。